ロボットビジネスに本気で取り組む
意欲ある人と共に。

ロボットをどうすれば実用化でき、ビジネスとして成り立つことができるのか。ロボットをビジネスにしようとすればするほど、様々な課題が生まれ、幾多もの壁にぶつかる。そんな一筋縄でいかないロボットのビジネス化について、いろいろ迷い、惑わされ、さんざんに叩かれながら、多くの実務経験を積んできた。
ある時それは表現活動（ＳＮＳ、演劇、映像、講演）であり、あるいは現場へのフィールド調査であり、関係者やユーザーへのインタビュー取材であった。また、ある時それはロボットベンチャーへの開発支援であり、ロボット実証実験での現実的対応であり、保険を含む安全性の確保に関する手段・方法であった。
本講座では、そうした実務を通じて考え、経験し、得てきた様々な知見をフル動員して、ロボットビジネスをとりまく国内外の最新動向から、他では絶対に聞けない「本音の話」まで、日本のロボットビジネスの基礎から実践、そして展望までを総合的かつ体系的に解説する。
ロボットビジネスに関心はあるのだけど何からはじめていいかわからない、これからロボットビジネスを新規事業としてはじめたい、今までロボットビジネスに携わってきたけどあらためて一から学びたい、そんなロボットビジネスに本気で取り組む意欲ある人に十分満足してもらえるよう、真に「骨太のロボットビジネス体系」をめざすと共に、次のステップにつながる橋渡しを試みたい。そして、参加した皆さんとこれからの10年に訪れるだろう、ヒトと機械と社会との劇的関係性＝グラン☆ロボティックや、ロボットと暮らす上質で新しい生活＝ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション、ロボットとの協働により変容する職場・雇用環境＝ロボティック・ワークスタイル・オペレーション、が実現する『ワレラの時代』について考えていきたい。

小林賢一

ロボットと暮らす上質で新しい生活＝ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション・サイト「ロボカーサ・ドットコム」（2005年〜）

ロボットを基軸に、ヒトと機械と社会との関係性を考える「ロボティック・ライフスタイル®Journal」（2005年〜）

夫婦とロボットが繰り広げる大人のコメディ。ロボティック・ドラマ　第一幕「Sex Bargain Robot」（2010年、2012年）

ロボティック・ライフスタイル®・ティーチイン「男と女 de ロボット」（2012年）

ロボティック・シンポジウム「ロボット関連技術の境界線　〜発展する無人機の可能性と国際動向〜（2013年）

ロボット保険サービス
ロボットや自動運転車、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険（2013年〜）

日本ロボットビジネス体系講座 2014-2015（2014年）

講師：小林賢一

認定NPO法人ロボティック普及促進センター 理事長
株式会社ロボットメディア 代表取締役

略歴：
2005年　ロボットの調査、プロモーション支援を専門に行う㈱ロボットメディアを設立。
これまで介護、医療、生活支援、住宅、宇宙、レスキュー、パーソナルモビリティ、自動掃除機、パワーアシスト機器、テレプレゼンス、無人機、自動運転車などのロボット関連技術に関する80を超える調査、300人を超えるロボットキーパーソンへの取材を行う。
また、「住まい」と「モビリティ」を中心に、ロボットと暮らす上質で新しい生活＝ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーションを紹介する「ロボカーサ・ドットコム」（※1）及び、ヒトと機械と社会との関係性を考える「ロボティック・ライフスタイル Journal」（※2）を運営。
2007年に調査・執筆した「高齢者・障害者の次世代自律支援機器の市場性と介護施設のニーズ分析」が、神奈川県 の介護・医療分野ロボット普及推進事業（2010年）の基礎資料となり、その後の介護ロボットの普及・実用化につながっていく。
2010年　ある家族とロボットとの20年にわたる物語、ロボティック・ドラマ　第1幕「Sex Bargain Robot」を作・演出（2012年に英字幕付き映像編集版を製作し、上映）
2011年　ロボット関連技術の一層の普及を目指す(N)ロボティック普及促進センターを設立。同年、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会事務局業務を開始。
また、2011年から3年間、神奈川県実証実験支援事業の実証実験実行委員会委員長を務め、実証実験の運営手法、安全性の確保など、ロボットが普及していくために必要なノウハウについて、総合的に取りまとめる。
2012年　NPO法人として日本で初めての損害保険代理業務（名称：ロボット保険サービス）を開始し、ロボットの実証実験や自動運転車のデモ走行、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険や安全に係るコンサルティングを行う。
同年、神奈川県の「県内ロボット関連製品開発・活用状況調査事業業務」を受託し、ロボットの実用化追跡調査及びロボット関連分野の実態調査を行う。
同年、第一線で活躍する女性ファッションディレクター、コピーライター、作家との対談、ロボティック・ライフスタイル®ティーチイン　「男と女 de ロボット」を開催。
2013年　「未来世紀ジパング〜進化するロボット」（テレビ東京）にロボットジャーナリストとして出演。「日本一ロボットに詳しい男」として紹介される。
同年、無人機に関する日本で初めてのシンポジウム「ロボット関連技術の境界線 〜発展する無人機の可能性と国際動向〜」を開催。
同年、神奈川県の「新産業ベンチャー起業化支援事業」プロジェクトにおいて、介護作業等における身体負担軽減（腰痛防止）を目的としたアシストロボットの開発支援、また、京浜コンビナート地区の大手プラント企業からの依頼で、プラント配管の固着物を点検・除去するロボットの開発支援を行う。
2014年　日本ロボットビジネス体系講座 2014-2015 を開催。
2015年　橋梁点検ロボットのリスクアセスメントやロボット開発を含むロボット事業支援を行う。
かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会 事務局長。ロボット保険サービス 代表。ロボット実証実験実行委員会 委員長（2011-2014）。介護・医療分野ロボット普及推進委員会 委員（2010〜2012）　など。

※1　ロボカーサ・ドットコム　　http://www.robocasa.com/
ロボカーサ・ドットコムにおけるロボットとは一般的なロボットのカタチ（ロボット単体）にとらわれることなく、人間の要求や環境に応じて動いたり、人間の行動を自動的に支援してくれる商品、及びロボットテクノロジーを使ったサービスやシステムのこと。

※2　ロボティック・ライフスタイル® Journal　　http://robocasa.seesaa.net/

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2015-2016

Robotic Increase Center

日本ロボットビジネス体系講座 2015-2016

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2015-2016

Le Grand ☆ robotique comité

ロボットビジネスに本気で取り組む
意欲ある人と共に。

日本のロボットビジネスを基礎から実践、今後の展望まで、総合的かつ体系的に解説。
国内外、分野別、企画から開発、実証実験、商品化に至る全過程を客観的なデータや実体験に基づく具体例を交えて、わかりやすく検証。細かな専門的技術論ではなく、社会環境、ユーザーニーズ、生活様式など、時代や人々の意識の大きな流れの中でロボットビジネスをとらえる。少人数で開催。

開催日（各日13：30〜18：00）　会場：川崎市産業振興会館　定員：各回5名（先着順）
2015年 5月9日（土）／7月4日（土）／9月12日（土）／10月17日（土）／11月14日（土）／12月12日（土）
2016年 1月23日（土）／2月20日（土）／3月12日（土）

主催：認定ＮＰＯ法人ロボティック普及促進センター　後援：かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会

開催日

2015年

5月9日（土）
7月4日（土）
9月12日（土）
10月17日（土）
11月14日（土）
12月12日（土）

2016年

1月23日（土）
2月20日（土）
3月12日（土）

（各日 13：30〜18：00）

※講座内容は同じですので、ご都合の良い講座日をお選びください。

会場：川崎市産業振興会館

JR川崎駅から徒歩8分、京浜急行川崎駅から徒歩7分

Ⅰ 基礎編

1. ワレラの時代　これからの10年
〜我々は今、時代のどこにいるのか、どこへ向かおうとしているのか〜
- ロボットとロボティック
- 先進技術動向
  〜IoT（モノのインターネット化）、ウェアラブル、スマートデバイスの先へ〜
- グラン☆ロボティック　〜ヒトと機械と社会との劇的関係性〜
- ロボティック・ライフスタイル®・コミュニケーション
  〜ロボットと暮らす上質で新しい生活〜
- ロボティック・ワークスタイル・オペレーション
  〜ロボットとの協働により変容する職場・雇用環境〜
- パブリック・アクセプタンス（社会的受容性）〜心理、倫理、プライバシー〜

2. 分野別最新動向
- 生活支援、作業支援、点検・メンテナンス、介護・見守り、医療、ドローン（無人機）、農業、パーソナルモビリティ、産業用（ヒト機械協調）、極限環境、AI（人工知能）　など

3. 海外の最新動向
- 北米（アメリカ、カナダ）、ヨーロッパ（ドイツ、スウェーデン、デンマーク、フランスなど）、アジア（中国、韓国）、その他（イスラエルなど）

4. 日本や海外のロボット関連施策、地方自治体の動向
5. ロボットのオペレーティングシステム（OS）
6. ロボット産業の分野別国際競争力

Ⅱ 実践編

1. 現状を知る
- 国内外のロボット販売台数
- 売れているロボットは海外製　〜なぜ先を越されてしまうのか〜
- 一筋縄ではいかないロボットビジネス

2. なにから手をつけていけばいいのか
- 企画から開発、商品化
- コンセプトの明確化、プロダクトの優位性
- 革新的アプローチ、漸進的アプローチ　〜具体的事例でみる〜
- すべてをロボット化する必要はない　〜失敗する確率の高い例〜

3. 企業別（大手企業、ベンチャー、海外企業）ケーススタディ
- 日本企業の最新動向
- ロボットを活用したサービス事例
  〜法人向け（B to B、B to B to C）、一般消費者向け（B to C）〜
- 販売方法、販路、サポート（メンテナンス）比較
- 海外ロボット企業、IT企業の最新動向
  〜iRobot、Amazon、Google、Microsoft、IBM、intel など〜

4. 規制について
- 規制緩和は本当に必要か
- ロボットに関わる法律
  〜ホームロボット、パーソナルモビリティ、ドローン、介護、医療ロボットなど〜

5. 資金調達方法
- ２０２０年までの補助金活用
- 麻薬に似た副作用

6. 実証実験
- 実証実験が本来目指すべきこと
- 神奈川県の実証実験支援事業で実施した運営方法

7. 安全性の確保
- 本質安全、機能安全
- リスクアセスメント
- 国際認証（CE マーク、ISO13482 など）
- 損害保険
  〜ロボットや自動運転車、サイバーセキュリティなどの先進技術の保険〜
- 神奈川県の実証実験支援事業で実施した安全対策
  〜安全パッケージで考える〜
- ロボティック・リテラシー
  〜リスクを共有する社会の醸成〜

8. 株と投資とロボット
- ロボット関連上場企業
- ロボットベンチャー、AI ベンチャー

Ⅲ 展望編
- グラン☆ロボティック　これからの10年（まとめ）
- ディスカッション

申し込み（定員 各回５名先着順）

下記メールアドレスに必要事項を記載の上、お申込みください。

seminasanka@npo-ric.org

件名：日本ロボットビジネス体系講座　受講申し込み
必要事項：受講日、氏名、企業/機関名、部門、年代、所在地、メールアドレス、電話番号、振込予定日

料金（税込）：

２万円

但し、10日前までに申し込みをし、振込の場合は
１万８千円

ゆうちょ銀行（郵便局）口座からお振込みの場合
（記号）10530　（番号）45074781
［名義］トクヒ）ロボティックフキュウソクシンセンター

※ゆうちょ銀行（郵便局）以外の金融機関からお振込みの場合
（店名）〇五八（ゼロゴハチ）（店番）058　（預金種目）普通預金
（口座番号）　4507478
［名義］トクヒ）ロボティックフキュウソクシンセンター

（※受講日の５日前までにお振込ください。）

各日とも講座内容は同じ（最新の情報提供）ですので、ご都合の良い講座日をお選びください。
講座終了後、個別相談にも応じます。
シンクタンクやコンサルティング職などの方からの申し込みはお断りする場合があります。

お問い合わせ・ご相談先（まずはメールでお問い合わせください）
otoiawase@npo-ric.org

※ロボットの最新動向を反映する講座にするため、講座内容が一部変更される場合があります。

主催：認定ＮＰＯ法人ロボティック普及促進センター　後援：かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会

日本ロボットビジネス体系講座 2015-2016

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2015−2016

対象者：ロボットビジネスに取り組もうとしている人、本気で取り組んでいる人。
定員：５名（先着順）　少人数なので、個別の質問や悩みごとなども相談可。

※企業、自治体、学校、団体機関などで社員や担当者、会員、学生向けに本講座をご希望の場合は、出張講座を行います。
また、役員を対象とした短時間の特別講座や目的別講座（海外最新動向、安全性確保、ロボットベンチャー、実証実験など）も可能です。
詳細についてはお問い合わせください。（ otoiawase@npo-ric.org ）

ワレラの時代
Le Grand ☆ robotique comité

Robotic Increase Center

認定NPO法人ロボティック普及促進センター（RIC）について

ロボティック普及促進センターは、かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会の会員有志などが中心になって設立。
現在、同協議会の事務局業務をはじめ、企業や研究機関、自治体などと連携して、ロボット関連技術の普及促進に関する事業を行っている。

2011年　4月　設立　神奈川県認証
　　6月　かわさき・神奈川ロボットビジネス協議会 事務局業務開始
2012年11月　NPO法人として日本初の損害保険代理業務（名称：ロボット保険サービス）を開始。ロボットや自動運転車、サイバーセキュリティなどの先進技術に係る保険やコンサルティングを行う。
2013年12月　神奈川県指定NPO法人
2014年　8月　神奈川県認定NPO法人※

ホームページ　http://npo-ric.seesaa.net/
メールアドレス　otoiawase@npo-ric.org

※認定NPO法人とは、「より客観的な基準において、高い公益性をもっている」と所管官庁（都道府県の知事、又は指定都市の長）により認定された法人。個人が認定NPO法人へ寄付をした場合、「寄付金控除」制度が適用され、確定申告をすることで税金の還付（最大50%）を受けることができ、法人の場合は損金に算入できる金額が拡大される。また、相続人が相続財産を寄付した場合は相続税が非課税になるなど、より高い税制優遇が適用される。

JAPAN ROBOT BUSINESS SYSTEM LECTURE 2015−2016

日本ロボットビジネス体系講座　受講者アンケート集計結果（2015年3月）

受講をきっかけに、ロボットの事業を立ち上げたり、事業化の準備やロボットの開発に乗り出すプレイヤーが誕生しています。

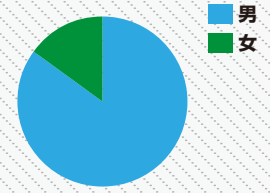
主な受講理由

- ロボット市場や他社の動向が気になる
- 国内はもちろん海外の最新ロボットビジネスについて知りたい
- 今後10年のロボットビジネスのヒントを得たい
- ロボットビジネスをはじめたいけれど、どこから手をつければいいかわからない
- ロボットの活用事例を探している
- ロボットの実用化に関連する法律や社会制度を知りたい
- 開発自慢や技術的な話ではなく、ビジネスや事業に直結する信頼性のある情報を得たい
- ロボットベンチャーやロボット製品を扱う企業を知りたい
- ユーザー導入事例を知り、自分たちのサービスと協働したい

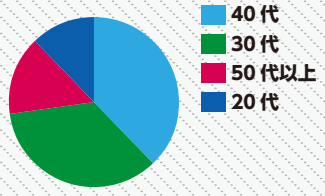
受講者の感想

- 想像していた以上にビジネスの観点から具体的な考え方を学ぶことができた。（金型成型メーカー営業部・20代男性）
- 他では知り得ない情報が満載だった。（インターネットサービス・30代男性）
- ロボット産業全体の流れ、展望など、まさにロボットビジネスの「体系」を学ぶことができた。（情報コンテンツ配信企画開発部門・40代男性）
- 膨大な資料（情報）の提供は今後のビジネスを考える上で大変参考になった。（インフラ電気通信エンジニアリング経営・60代男性）
- ロボット産業の現状について包括的に知ることができた。（人材派遣・20代男性）
- バラバラだった知識をまとめて再度学ぶことができた。（半導体機器メーカー販売部門・40代男性）
- ロボットビジネスの難しさを実感できたが、逆にあきらめずにやっていこうという気になった。（ICTソルーション新規事業部門・40代男性）
- 大きな枠での話で大変有意義だった。ビジネスの急所をイメージできた（自動車用電子部品メーカー・30代男性）
- 具体的なアプローチ方法について学ぶことができた（航空宇宙機器メーカー営業部門・30代男性）
- 自分では調べきれない情報や傾向などが効率良くまとまっていた。（住宅建設メーカー研究開発部門・30代女性）
- これからロボットビジネスに関わっていく方に向け、いくつかのアプローチを平易に解説していた。半日で現状のサービスロボット分野の動向を整理することができ、大変お得だった。講義のブレークダウンの仕方もとても良かった（新聞社IT部門・40代男性）
- 日本だけでなく欧米の最新情報を収集することができた。（精密加工メーカー経営・50代男性）
- 長い経験に基づく体系的な内容だった。（ICTソルーション新規事業部門・30代男性）
- ロボットの最新のデータを得ることができた。（地方自治体職員・40代女性）
- 講座で学んだことはすべての企画に当てはまる。コトを起こすことに必要な考え方。ロボット産業を含め、どのように我々の生活に応用し、人々の生活の質を向上させ、ビジネスとして成り立たせるか、考えたい。（電子機器開発メーカー経営・40代男性）
- 同じ内容で複数回開催されていたので、参加しやすかった（産業用ロボットメーカー技術開発部門・20代女性）

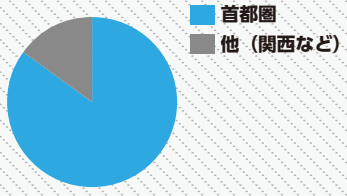
性別



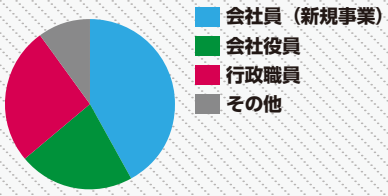
年齢



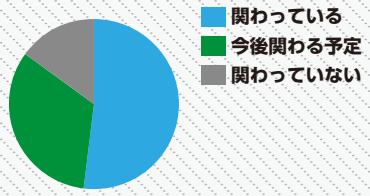
住まい



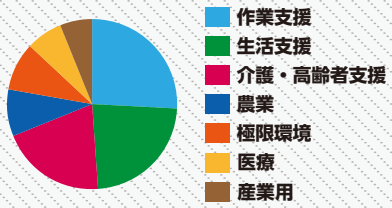
職業



ロボットビジネスとの関わり



関心のあるロボットビジネス分野



FAX 047-493-2490

認定NPO法人ロボティック普及促進センター

日本ロボットビジネス体系講座 2015-2016 申し込み書（FAX用）

■講座日（受講を希望する日に☑をいれてください。）

2015年

□5月9日（土）／□7月4日（土）／□9月12日（土）／□10月17日（土）／□11月14日（土）
□12月12日（土）

2016年

□1月23日（土）／□2月20日（土）／□3月12日（土）

■振込予定日

月　　日

※受講日の５日前までにお振込ください。

氏名（ふりがな）　　年代　　男性・女性

企業・機関名／部門（役職）

所在地

メールアドレス

電話番号

受講理由

※FAX 受信後、確認のメールを上記メールアドレスにお送りします。